第六次総合計画　施策評価シート（令和元年度）

4−⑩

施策

高齢者の出会う場・学びの場・活躍の場を充実する

担当部局

保健福祉局，文化産業局

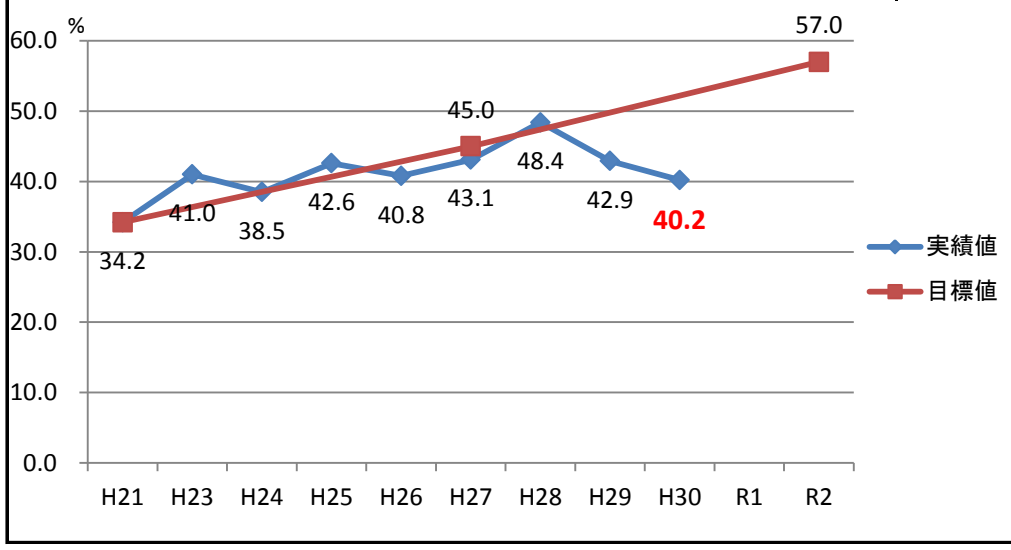
【共　生】 めざすまちの姿　高齢者が生きがいをもって活動している

市の基本方針

●高齢者の孤独感や閉じこもりを解消していくため，高齢者が気軽に集い，仲間との出会い，交流の機会や異世代との交流が図られるよう，ふれあいの場の創出に努めます。
●高齢者の学びに対するニーズを把握した学習機会の充実や，高齢者が主体的に講座の企画立案に携わることができるよう情報を提供し，支援します。
●社会活動や地域活動，就業活動への参加を促進し，高齢者の活躍の場を広げる取組を充実します。

数値目標

まちづくり指標	目指す方向性	算出方法
スポーツや趣味を楽しむ等、生きがいをもって活動している人の割合	↗	市民アンケート調査における属性で，65歳以上の人で，「スポーツや趣味を楽しむ等，生きがいをもって活動していますか。」という設問に対して，『活動している』と回答した人の割合。 ※H21(基準値)の設問は「生きがいをもって活動していますか。」



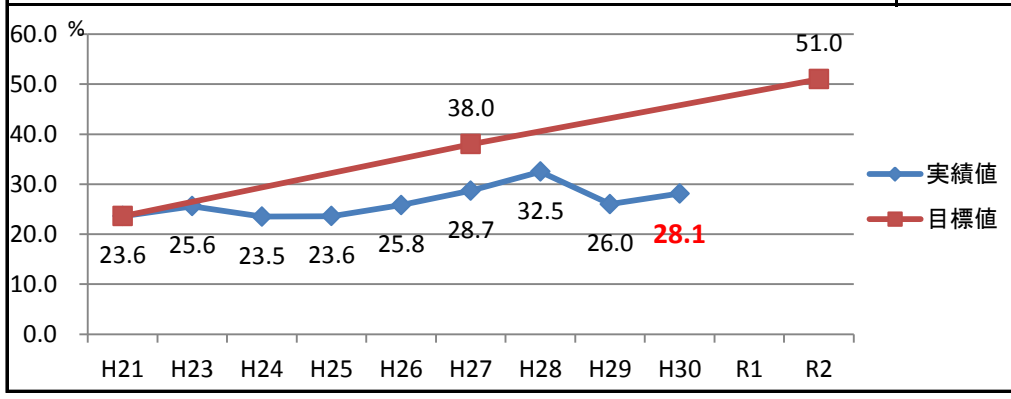
動向（Ⅰ）／内訳（Ⅱ）／分析（Ⅲ）

（Ⅰ） 実績値は，基準年に比べ，6ﾎﾟｲﾝﾄ上がり，前年度に比べ，2.7ﾎﾟｲﾝﾄ下がった。
【「まちづくり指標」アンケート調査結果報告書P83】

（Ⅱ） 全体の内訳は，27.1%の人が「どちらともいえない」，28.7%の人が「活動していない」と回答している。また，年齢別では65～69歳の男性41.5%，女性50.0%及び70歳以上の男性33.9%，女性41.0%が「活動している」と回答している。

（Ⅲ） 平成21年度（基準値）からは上昇傾向であるが，昨年度より指数は低下している。スポーツや趣味を行う高齢者の割合も減っているが，ふれあいサロンの数は増加しており，高齢者が気軽に集う場での活動を，生きがいと感じているとは限らないものと思われる。

まちづくり指標	目指す方向性	算出方法
生きがい活動に必要な情報が得られていると思う高齢者の割合	↗	市民アンケート調査における属性で，65歳以上の人で，「生きがい活動に必要な情報が得られていますか。」という設問に対して，『得られている』と回答した人の割合。



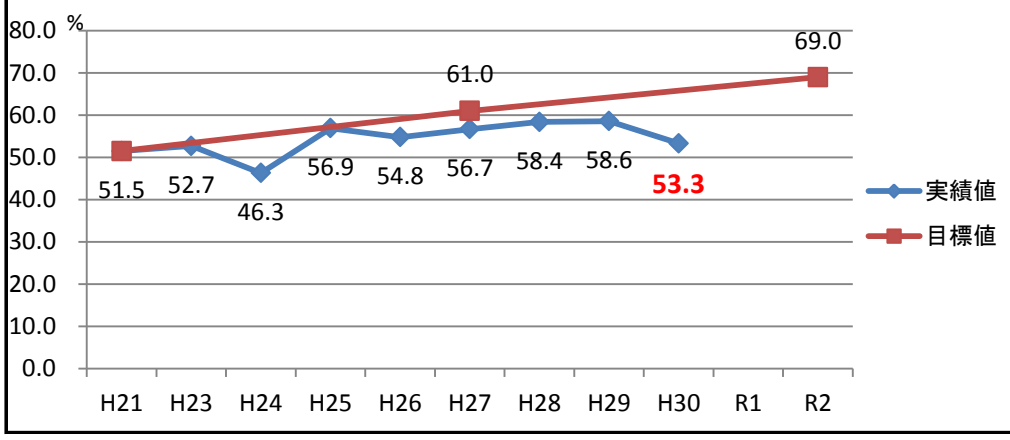
動向（Ⅰ）／内訳（Ⅱ）／分析（Ⅲ）

（Ⅰ） 実績値は，基準年に比べ，4.5ﾎﾟｲﾝﾄ上がり，前年度に比べ，2.1ﾎﾟｲﾝﾄ上がった。
【「まちづくり指標」アンケート調査結果報告書P84】

（Ⅱ） 男女別では，男性24.9%，女性30.8%と女性の方が高かった。内訳は，男性48.6%，女性41.6%が「どちらともいえない」，男性22.6%，女性22.6%が「得られていない」と回答している。

（Ⅲ） 生きがい活動について，高齢者の意識やニーズを把握するとともに，好事例を見える化するなどの情報提供が必要と思われる。

まちづくり指標	目指す方向性	算出方法
週1回以上スポーツや趣味を行っている高齢者の割合	↗	市民アンケート調査における属性で，65歳以上の人で，「週1回以上スポーツや趣味をおこなっていますか。」という設問に対して，『おこなっている』と回答した人の割合。



動向(Ⅰ)／内訳(Ⅱ)／分析(Ⅲ)

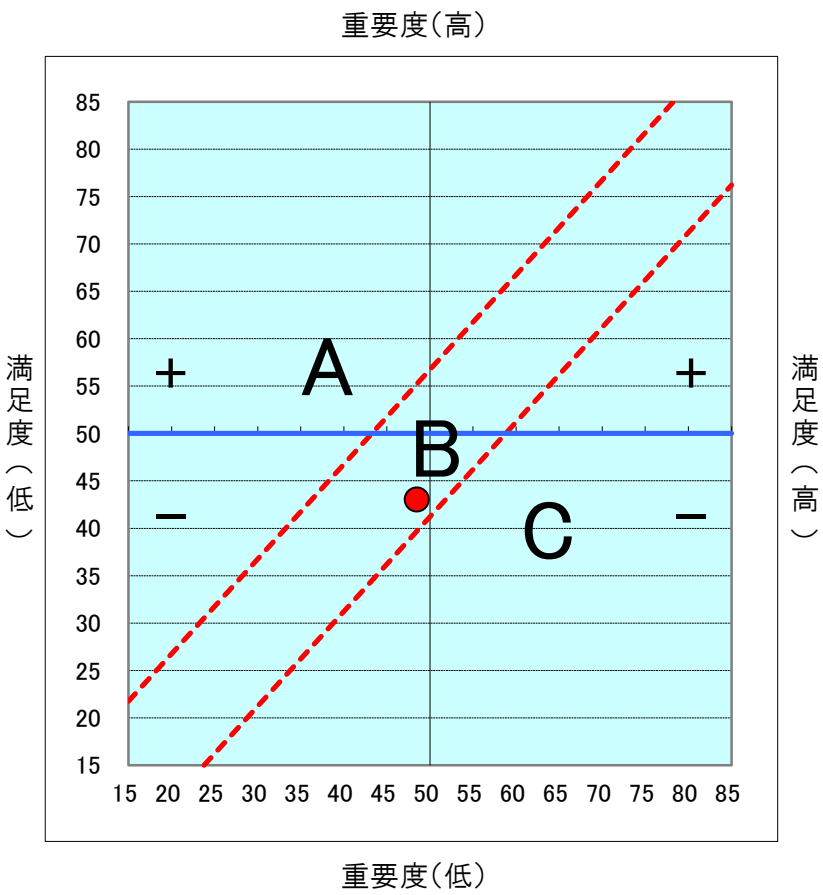
(Ⅰ) 実績値は，基準年に比べ，1.8ﾎﾟｲﾝﾄ上がり，前年度に比べ，5.3ﾎﾟｲﾝﾄ下がった。
【「まちづくり指標」アンケート調査結果報告書P84】
(Ⅱ) 男女別では，男性58.8%，女性約48.9%と男性の方が高かった。また，年齢別では65～69歳の男性66.0%，女性60.0%及び70歳以上の男性55.6%，女性44.7%が「行っている」と回答している。
(Ⅲ) 65～69歳の割合は増加したが，70歳以上の女性の割合が大きく下がっている。高齢者の意識やニーズを把握するとともに，堅調に増加しているふれあいサロン等「通いの場」の充実を今後も推進していく必要があると思われる。

施策を推進する主な事業の評価

区分	事業名	目的(Ⅰ)／平成30年度の主な実績(Ⅱ)／今後の方向性(Ⅲ)	H30年度決算額（千円）
重公	**老人福祉施設整備事業**	(Ⅰ) 施設機能の維持及び向上を目的として実施した。 (Ⅱ) 下津井憩の家駐車場整備工事(1,944千円)，黒崎憩の家駐輪場入口整備修繕(464千円)など，老人福祉施設の整備(修繕等)を実施した。 (Ⅲ) 継続して実施する。	2,990
	シルバー人材センター運営事業	(Ⅰ) 市内の60歳以上の高齢者の雇用･就業を支えるための拠点となる倉敷市シルバー人材センターの安定的な事業運営を目的として，補助金を交付した。また，企業等の人手不足分野や介護，育児等の現役世代を支える分野について，高齢者に就業機会を提供するため，高齢者活用･現役世代雇用サポート事業の補助金を交付した。(平成27年度から実施) (Ⅱ) 会員数(1,478人)は前年度と比較すると増加した。契約金額(566,508千円)は減少し，受注件数(12,702件)も減少した。 (Ⅲ) 継続して実施する。	36,980
	敬老記念品贈呈事業	(Ⅰ) 長寿を祝福することを目的として実施した。 (Ⅱ) 88歳2,173人，100歳104人に記念品を贈呈した。 (Ⅲ) 継続して実施する。	18,283
	高齢者生きがい対応型デイサービス事業	(Ⅰ) 高齢者の社会参加の促進，介護予防及び生きがいの向上を目的として実施した。 (Ⅱ) 講座開講回数290回，延べ参加人数4,978人。 (Ⅲ) 継続して実施する。	8,320
	3世代ふれあい交流事業	(Ⅰ) 若年者の高齢者に対する理解を深めるとともに，長寿社会における高齢者の健康と生きがいを高め，介護予防を図ることを目的として実施した。 (Ⅱ) 会場数30会場，参加人数5,065人。 (Ⅲ) 継続して実施する。	1,636
	老人クラブ助成事業	(Ⅰ) 高齢者の仲間作りを促すとともに，教養の向上，健康増進及び社会奉仕などの活動により高齢者の生きがいを高め，社会参加を促進することを目的として実施した。 (Ⅱ) クラブ数377クラブ，会員数17,233人。 (Ⅲ) クラブ数及び会員数の減少がみられるため，広報活動を強化し，より効率的に実施する。	23,923
	老人福祉センター管理運営事業	(Ⅰ) 地域の高齢者に対して各種の相談に応じるとともに，健康の増進，教養の向上及びレクリエーションのための便宜を総合的に供与し，高齢者に健康で明るい生活を営んでもらうことを目的として実施した。 (Ⅱ) 利用者数72,857人。 (Ⅲ) 継続して実施する。	116,081
	憩の家管理運営事業	(Ⅰ) 地域の高齢者に対し，教養の向上，レクリエーション等の場を供与し，高齢者の心身の健康保持に寄与することを目的として実施した。 (Ⅱ) 利用者数328,004人。 (Ⅲ) 継続して実施する。	83,800
公創	**いきいきポイント推進事業(再掲)**	(Ⅰ) 社会貢献による高齢者自身の介護予防を目的として実施した。 (Ⅱ) 661人のボランティア登録があり，ボランティア延べ実施時間は17,140時間であった。また，ボランティアの受入事業所として新たに受入事業所を地域活動支援センター(Ⅰ型)や発達障害者支援センター，児童発達支援事業所などに拡大したところ，新規に9カ所を登録し，総数で344件の登録となった。 (Ⅲ) 継続して実施する。また，未登録者や活動に至っていない登録者に対し，ボランティア体験事業や受入事業所とのマッチングイベント等を開催していく。	6,424
重公創	**ふれあいサロン活動促進事業(再掲)**	(Ⅰ) 地域の公民館等でサロン活動を行うことにより，閉じこもりがちな高齢者の社会参加を促進し，高齢者を地域で支えるためのネットワークを構築することを目的として実施した。 (Ⅱ) 平成29年度から，新たに子育て世代等の多世代との交流や体操等に毎週取り組む場合等に加算を設け，健康づくりや介護予防を推進するとともに，活動内容の充実を図った。活動サロン数は263カ所。 (Ⅲ) 継続して実施する。	8,868

区分	事業名	目的(Ⅰ)／平成30年度の主な実績(Ⅱ)／今後の方向性(Ⅲ)	H30年度決算額（千円）
重公創	**健康いきいきサロン活動促進事業（再掲）**	（Ⅰ） 医療機関及び介護事業所において，地域交流スペース等を活用し，医療や介護の専門職と地域住民が協働して運営するサロン活動を実施した。 （Ⅱ） 活動サロン数は3カ所で実施。 （Ⅲ） 事業内容の検討を行いながら，継続して実施する。	280
重公創	**生活支援コーディネーター配置事業（再掲）**	（Ⅰ） ボランティアやNPOなど地域の関係団体間の連携や調整を行う生活支援コーディネーターを配置し，高齢者の社会参加や地域での支え合い活動を強化することを目的として実施した。 （Ⅱ） 倉敷市社会福祉協議会に生活支援コーディネーターを新たに2人配置し，5人体制で実施。全市のみならず小学校区単位での身近な地域を対象に情報発信や活動支援を行った。 （Ⅲ） 継続して地域の活動支援を行なうとともに，通いの場等の事例集を作成し，地域へ情報発信を行う。	32,367
公	**地域支え合い推進事業（再掲）**	（Ⅰ） 高齢者，障がい者，子どもといった世代，分野を越えて支え合う地域づくりを推進するため，専門機関同士の連携強化を図るとともに，専門支援機関の連携の好事例等をガイドブックにまとめ情報発信する。 （Ⅱ） 平成30年7月の豪雨災害を受け，被災地において従来の関係機関や団体に加え，市や災害支援団体等多くの新たな市民や機関が連携するなかで生まれた支え合いの好事例をまとめた事例集を作成。 （Ⅲ） 地域共生の視点に立ち，支援機関向け研修会の開催や地域の支え合い活動の定期的な情報発信を行う。	2,119
重公創	**地域支え合い活動普及啓発事業（再掲）**	（Ⅰ） サロン代表者同士の情報交換やフォーラムでの意識・啓発を通して，サロン活動と地域住民の支え合いの推進を目的として実施した。 （Ⅱ） 平成30年度は市内6地区（倉敷・水島・児島・玉島・船穂・真備）でサロン代表者や関係者を集めた交流会を開催し，延べ81人が参加した。また，地域での支え合い活動をテーマにした市民向けフォーラムを1回開催し，延べ289人が参加した。 （Ⅲ） 継続して実施する。	459
重公創	**認知症サポーター養成事業（再掲）**	（Ⅰ） 認知症について，正しい知識と理解を持ち，地域の見守り等を担う認知症サポーターを養成することを目的として実施した。 （Ⅱ） 平成30年度は認知症サポーター養成講座を152回開催し，3,560人のサポーターが誕生した。 （Ⅲ） 継続して実施する。また，小学生を対象に認知症サポーターキッズ教室も継続して実施する。	1,145
公創	**高梁川流域中高年健康スポーツ推進事業（再掲）**	（Ⅰ） 高梁川流域自治体の保健師が集い，情報交換及び健康づくりの企画・提案を行う検討会議を開催した。 （Ⅱ） 2回開催した。1回目は15人，2回目は14人出席した。保健事業に関する情報交換を行い，中高年スポーツ推進事業・健康サポートブックに関して，実施状況や今後に向けて協議を行った。 （Ⅲ） 事業の実施方法等検討しながら，継続して実施する。	40
公創	**1000万人ラジオ体操・みんなの体操祭実施事業（再掲）**	（Ⅰ） 1000万人にも及ぶ人々に一斉にラジオ体操を行ってもらうという趣旨で，1962年から毎年1回開催されている，ラジオ体操関係で国内最大のイベントである「1000万人ラジオ体操・みんなの体操祭」を実施した。 （Ⅱ） 岡山県内では初めての開催であり，約5,000人が参加。 （Ⅲ） 平成27年の夏期巡回ラジオ体操を契機に倉敷市内で広がりを見せているラジオ体操の更なる普及のため，継続してラジオ体操関係イベントを誘致する。	2,119
公創	**くらしき健康応援事業（再掲）**	（Ⅰ） 市民の健康意識の向上を目指して，様々な事業を実施し，幅広い世代に向け健康行動の実践のきっかけづくりを行うことを目的に実施した。 （Ⅱ） 健康づくりを広く学べる「くらしき健康応援団講座」（61回，1,587人），健康イベントや講座の情報をわかりやすくまとめた「くらしき健康ガイド」の発行（年2回），骨密度や血流などの測定体験を充実（延15,786人），健康行動や健（検）診などへの参加によりポイント付与される「くらしき健康ポイント事業」（WEB・アプリ参加者2,160人）の4つの事業を実施した。 （Ⅲ） 企業等とも連携し，今まで啓発が難しかった若い世代，働き盛り世代へ健康づくりへの働きかけを強化していく。	17,168
	公園等清掃委託事業(再掲)	（Ⅰ） 高齢者に公園・遊園の清掃作業を委託することにより，高齢者の社会参加促進，余暇の活用，健康の保持，生きがいの発見等高齢者福祉の増進にも資することを目的として実施した。 （Ⅱ） 市内の公園等のうち，高齢者の生きがい支援として，272カ所の公園・遊園の清掃を地域の高齢者やシルバー人材センターに委託して実施した。 （Ⅲ） 継続して実施する。	28,856
公創	**倉敷北児童センター・西岡荘再整備事業（再掲）**	（Ⅰ） 倉敷北児童センター及び老人福祉センター西岡荘の再整備を目的に実施した。 （Ⅱ） 倉敷北児童センターの移転新築と旧センターの西岡荘への転用について，PFI導入可能性調査を行った。 （Ⅲ） DB（デザインビルド）方式による再整備を行う。	5,292

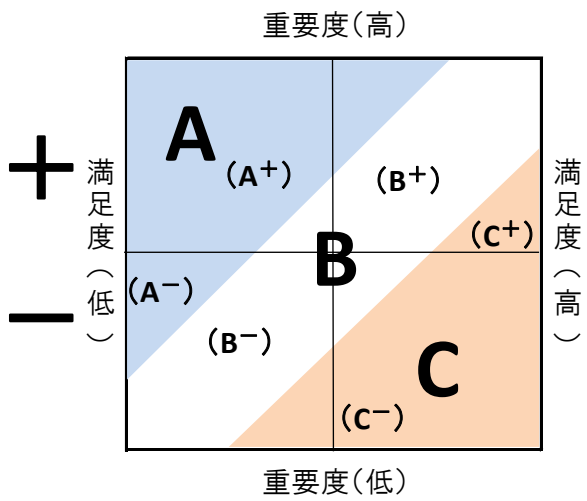
市民の重要度・満足度(R1.5アンケート調査結果)



領域	偏差値	
	重要度	満足度
B⁻	43.02	48.52

●重要度に見合った満足度が得られている(B)
●重要度が平均値より低い(ー)

【グラフの見方】



A:重要度に見合った
　満足度が得られていない領域
B:重要度に見合った
　満足度が得られている領域
C:重要度に見合う以上の
　満足度が得られている領域

※　以上の3つの領域を，さらに2つに
　分割(3×2領域)
＋:重要度が平均値より高い部分
ー:重要度が平均値より低い部分

A^+, A^-, B^+, B^-, C^+, C^-

A^+:重要度が高く，
　その重要度に見合った
　満足度が得られていない領域

課題

●生きがい活動に必要な情報を得られていると感じる高齢者は約四分の一程度に止まっている一方，老人クラブの会員数は減少傾向にあり，高齢者の生きがいにつながる事業のPR方法を工夫する必要がある。
●ねたきりや認知症につながる閉じこもりを防ぐため，高齢者が他者と接点を持ち，積極的に外出できるような環境づくりが必要である。

今後の取組み方針

●高齢者の仲間作りや活躍の場となる老人クラブやシルバー人材センターについて活動の魅力や参加方法等を「広報くらしき」などを通じ，より具体的にPRし，活動の活性化と加入促進を図る。
●高齢者が活躍できる地域づくりの役割を担う，生活支援コーディネーターを中心に，関係機関との連携強化を図り，ふれあいサロンやいきいきポイント等の高齢者の社会参加を推進する。
●地域の支え合い活動の好事例集を作成し，支え合いの充実を目指す。
●くらしき「通いの場」ガイドブックや「広報くらしき」などを通じてサロン活動のPRや助成の充実により実施箇所を増やすとともに，サロン交流会の開催などを行い，活動内容の充実を図る。
●憩の家，老人福祉センター等高齢者の交流拠点を運営し，「広報くらしき」などを通じ，より具体的にPRを行う。